



# おなづか



<http://www.ota-school.ed.jp/onazuka-es/>

発行者 大田区立おなづか小学校 校長 橋本 由美子

## 「おもてなし」の日常化を

副校長 鈴木政良

「東京 2020」オリンピック・パラリンピック。新型コロナウイルスの全世界的流行により、開催が決定された8年前(2013年)と状況が変わり、1年間延長しての開催となりました。

開催直前まで、実施可否を含め様々な議論がありました。終了してから早一か月近くが過ぎました。様々な問題もありましたが、日本は多くのメダルを獲得する等、多くの感動がありました。一方、今後、経済面や施設の有効活用等を含め、検証・検討すべきことも多く残されています。

学校では「東京 2020」に向け、様々な取組をしてきました。今後、地域・家庭・学校の大人たちは、「東京 2020」から得たことや学んだことを、いかに子どもたちに教え、気付かせ、実践させるかということが必要です。

8年前の五輪誘致のプレゼンテーションで「おもてなし」という言葉が遣われました。「もてなす(持て成す)」という動詞の名詞型ですが、辞書によると今回の場合は①相手を取り扱う、待遇する ②大切に扱う、大事にする ③手厚く歓待する、饗応する、御馳走する(出典:日本語大辞典 小学館)という意味ととらえられます。

新聞には「おもてなし世界に伝わる」という題で「多様な食文化に配慮し、約700種の料理と50種の調味料が用意された」「過去大会と比べ、味や見た目も質が高いと好評」「ボランティアは会場入りを拍手で迎え、帰国する際には空港で『ARIGATO』などと書いたカードを掲げて見送った」などの記事がありました。

中でも話題になったことは、陸上男子110mハードル出場の選手が会場を間違えた際、ボランティアの女性が交通費を差し出して競技に間に合い、翌日の決勝で優勝して金メダルを獲得したという報道です。その選手がSNSに投稿し、世界中がその行いを知ることになり、とても誇らしい気持ちになりました。

以前、海外でのサッカーの試合で、日本人サポーターが観客席のごみ拾いをし、称賛されたとの報道もありました。

これら「おもてなし、おもいやり」の気持ちと行動は、日本の風土に育った人が長い歴史と文化の中で培った自然な行い、日本の教育で学んだ「人としての行動様式」、言わば「道徳力の実践」であると言えるのではないのでしょうか。他国との比較ではなく、日本に住む人々の良き国民性、特質ととらえ、誇りを感じてもよいのではないかと考えます。

これらの不易と言える「よさ」を我が国の文化として次世代に引き継ぎ、実生活で自然に実践できるようにすることが、私たち大人が今回学んだことのように考えています。

(参考:読売新聞 9/7朝刊)

## 10月の行事予定

日	曜	行 事
1	金	都民の日
4	月	委員会
5	火	
6	水	午前授業 交通安全教室(全)
7	木	
8	金	
9	土	土曜授業
11	月	安全指導 早寝早起き朝ごはん週間(15日まで) クラブ
12	火	歯科検診(1・3・4・5年) 遠足(2年)
13	水	特別時程
14	木	歯科検診(2・6年) 遠足(5年)
15	金	小連合図工展始
18	月	喫煙防止教室(6年) クラブ
19	火	遠足予備日(2年)
20	水	午前授業
21	木	避難訓練 小連合図工展終
22	金	社会科見学(3年)
25	月	午前授業
26	火	生活科見学(1年)
27	水	
28	木	遠足(4年)
29	金	

### スクールカウンセラー出勤日

\*平井先生(毎週月曜日) 4日・11日・18日・25日  
\*城戸先生(毎週金曜日) 1日・8日・15日・22日・29日

### エール・ウィークの取組について

生活指導主任

先の見通しがもちづらいコロナ禍の中で、楽しみにしていた活動に制限がかかり、喪失感や漠然とした不安を抱える子どもの増加が懸念されています。

そこで東京都では新たに自己肯定感を高めるための「エール・ウィーク」の取組を始めました。本校では、教職員が丸となって子ども一人一人のよさを見付け、直接伝えました。

自己肯定感は、様々な困難の中で生きるありのままの自分を認めるための大切な柱となります。また、新たな課題に挑戦したり、苦手なことに粘り強く取り組んだりするためのエネルギーにもなります。エール・ウィークに限らず、今後とも子どものよさを認め、もっている力を十全に発揮できる教育活動を続けていきます。ご家庭でも、たとえ小さな頑張りであっても、ほめ、認める言葉をかけてください。

給食費の引き落としは10月5日(火)です。期日までに共立信用組合へご入金をお願いいたします。